令和5年度 学校関係者評価書（様式）

鈴鹿市立桜島小学校		NO.	
評価項目	本年度の活動（具体的な手立て）と指標	学校関係者評価	今後の改善点
学力向上	<p>1 教科部会を核に据えた研修の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4つ（算数・社会・理科・体育）の各教科部会で一回ずつ全体提案の実施 ・児童が思いや疑問をもち主体的に授業に取組めるような課題の工夫 <p>→学校アンケートによる検証</p> <p>2 基礎学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習チェックシートによる家庭学習の推進 ・ファミリー読書や図書祭りによる読書の推進 ・読む・書くワークシート、読むYOMUワークシートの取組 <p>→各種アンケート等による検証</p> <p>3 研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミニ研修の実施 ・指導教諭による提案授業や研修会 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクリーンタイムの時間制限の管理が家庭においても必要である、 ・読書は、読み進んでいく中で、単語の意味が理解できる時がある。状況の中での意味も理解しながら、読書を楽しんでほしい。 ・教科担任制にすることで、先生方のスキルも上がり、子どもたちにも良い影響を与えていると思います。高学年になって、特に算数が難しくなってくると思いますが、楽しく定着度も上げられるような、子どもの「できた！」がたくさん見られるようになってほしいです。 ・読み聞かせボランティアを10年以上やってきた立場として、読書をする子どもが増えているのは嬉しいです。 <p>司書さんと協力していただいて、新しい本、子どもの興味を広げられる本の充実を図書室にお願いしたいです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校に伺うたびに、先生方のお忙しい姿を見ていますが、研修などご自身のスキルアップの機会をこれからも作って、先生も学ぶ楽しさを改めて感じていけたらと思います。 ・教科担任制についてはいいと思う。クラスによって成績にバラつきができていくことと先生方も自身の担当教科について、より時間をとって授業準備ができることがいいと思う点である。 ・授業については、楽しいと子どもから聞いている。例えば国語の授業で「。」で区切って、音読をする時、席順ではなく読んでいる人が次に読む人を指名し、あらかじめ決めておいたおに（先生しか知らない）を指名したら、「。」で終わらずに交代する、とかゲーム形式にしてより楽しく取り組めるように工夫されていると思う。これも日々の授業に力を入れて取り組まれている中のひとつかなと感じた。 ・読書については、昨年に引き続き図書祭りやイベントを開催して読書量UPに取り組んでいるし、そういったイベントがある方が図書室に足が向かいやすいと言っている。昨年から一人が1回で借りられる冊数が1冊から2冊に増えたのは、一人当たりの冊数がupした一因だと思う。カリキュラムの関係で難しいのかもしれないが、高学年でも図書の時間が取ればいいと思う。 ・読むYOMUワークシートについては、内容の難しさや読み取りに時間がかかる等の課題があるものの、それでも子ども達は肯定的に捉え取り組んでいることで、頑張っているんだなと思う。難しいけど続けることでわかる言葉が増えたり、少しずつでも読み取れるようになっていくと思うので続けていってほしいと思う。 ・家庭学習の時間を決めて、一定の時間は机に向かって勉強することを習慣づける。 ・スマホ、WEB等による情報入手より読書をする楽しみを見つけ出せる方法を指導して欲しい。 <p>・「学校の勉強は楽しい」が90%台というほぼ飽和点という高い評価の中、これ以上何をすればよいのか、逆に力が抜けてしまうのでは？と思いますが、工夫して気持ちを高めているのは考えているよりも、かなり難しいことだと思う。教科担任制が肯定的に受け入れられている所から見ても、より専門的で難しい学習についても意欲的に取り組む姿勢だと見て取れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲も能力もある子どもたちが、超難問に取り組むチャレンジ授業があっても楽しそうだ。算数オリンピックに出るような小学生が桜島からもできれば嬉しいです。 ・「家庭学習」と「スクリーンタイム」が学年が上がるにつれて、上がることについて、クロームブックを活用して学習している時間も含まれるのであれば、当然上がると思われるので、学習以外のスクリーンタイムの在り方を学校と家庭で連携していく必要があると思います。 ・基礎学力の向上では様々な観点から取り組まれており評価できる。家庭学習チェックシート期間中の平日学習平均時間は目標時間に達していて効果のある取組といえる。読書の推進においても一人当たりの貸出冊数が昨年より10冊増えていて、十分な成果である。 ・家庭学習については、自ら目標を立て取り組むことが大切だと思うので、今後もチェックシートを活用しながら定着していってほしいです。 ・読書の機会が増えたことは、とても素晴らしいと感じました。国語力を伸ばすことが学力向上にもつながると思うので、たくさん本と出会って本を好きなようになってもらえるよう家庭でも一緒に取り組んでいきたいです。参考（お薦め）リストなどあれば、いいなと思いました。 ・先生方の日々の努力のおかげで、子どもたちが学校での授業を楽しく過ごせていると思うので、本当に感謝しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修委員会を中心として、授業実践のなかで、職員が授業力を高め合い、日々の授業を通じて、引き続き授業改善に努めていく。 ・学年が上がるにつれて、学習内容が難しくなるので、引き続き教科担任制を実施するなかで、基礎学力の定着を図る ・読むYOMUワークシート、読書活動の充実など、鈴鹿市教育委員会の取組を推進することで、桜島小学校の強みを伸ばし、弱みを改善していく。 ・家庭学習とスクリーンタイムの在り方について、保護者、地域と今後も議論を重ねていく。
		<p>（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科担任制に対するアンケート（高学年）では、7月時点で肯定が92%で12月には95%に上昇している。また、「学校の勉強は楽しい」の項目は7月時点で肯定が90%で12月には91%と高い数値を保つことができた。昨年の88%も上回る結果となった。一方で高学年になるにつれて「あまり楽しくない」、「楽しくない」の割合が高くなっている。学年が上がるにつれて学習内容が難しくなっていくため、低・中学年の学習内容を定着させる必要がある。 ・家庭学習チェックシートの感想を読むと期間中に前向きに取組む家庭が多く見られた。平日学習の平均時間は低学年で約45分、中学年で約55分、高学年で約70分と学年の目標時間に達することができた。一方でスクリーンタイムも学年が上がるにつれて長くなっている。 ・1か月に読んでいる本の数に関するアンケートでは、1冊も読まない割合が約10%となった。読書についても授業時間のない高学年で読む冊数が少ない傾向にある。 ・昨年度と今年度の貸し出し冊数（11月まで）を比較すると、昨年度が一人当たり約21冊、今年度は一人当たり約31冊で、一人当たり10冊増えている。今年度の読書推進の成果と考える。 ・読むYOMUワークシートは高学年で実施している。取組のアンケートでは、「取り組んでよかった」、「役に立つ」と回答した児童がそれぞれ約85%と肯定的に取り組む児童が多くいることが分かった。一方で読み取りに時間がかかることが多く設定時間の15分では終わらないこともあった。「知らない言葉がある」が62%、「内容が難しい」が54%という点から、語彙や漢字の習得や説明する文章の読み方に課題がみられる。 ・ミニ研修では夏季休暇中に講師を招き、理科の天文分野についての内容理解を深めることができた。指導教諭による若手に対する指導力向上の提案授業やみえスタ・学調から見える課題についての講義をしてもらうことで、指導力の向上につながった。 	

ICTの活用	<p>I ICTを活用した子どもの学びの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの思いや疑問を解決するための授業でのICTの効果的な活用 ・端末の持ち帰りによる家庭学習の充実 <p>→児童アンケートによる検証</p> <p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートの「クロームブックを使った授業はわかりやすい」の項目は、7月から12月まで94%の児童が「わかりやすい」、「まあまあわかりやすい」と回答している。 ・クロームブックについてのアンケートでは、「授業中にクロームブックをどの程度使っていますか」に対して4～6年生は「ほぼ毎日」が63%と市の38%を大きく上回っている。英語の練習やオンライン交流、プレゼンテーション、社会科では自作スライド等での資料の提示、調べ学習で用いている。一方で1～3年生は「週に1, 2回」が52%となっており、市全体で見ると「週に3, 4回以上」が約40%のため低学年のうちからどのように活用していくのかという点に課題がみられる。 ・クロームブックの活用方法については「意見を交換する場面」や「自分の考えをまとめて発表する」、共同編集といった部分で課題がみられる。 ・家庭学習での活用は1～3年生で週に1～2回程度、4～6年生で毎日持ち帰りを実施している。低学年では視写の取組みを行うことで、文字の習得に生かされている。高学年では学習内容の振り返りとして、ドリルパークの問題に取組んでいる。しかし、家庭で取組む児童と取組まない児童がはっきりしており、特に学習に対する苦手意識がある児童は、ドリルやノート以上の宿題に取組むことが難しい。ドリルパーク以外の活用についても検討が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各家庭では、ITに詳しくないこともあると思う。クロームブックを家庭で使用する時には、学校のフォローを充実してください。 ・全ての子どもたちに、タブレットを使った学習ができるのは、良いことだと思います。手を挙げて発言するのが苦手な子もタブレット上で意見交換できるようになればよいと思います。 ・タブレットを使った自宅学習は、取組の差が今後どんどん広がると思うので、家庭とも協力して、うまく活用できる方法を考えていく必要があると思います。 ・先日の授業公開で、5年生の授業で一人一人がお薦めの本を紹介し合うプレゼンが行われた。クロームブックであらかじめ資料が作ってあり、画面をスライドさせながらプレゼンする内容で、クロームブックが上手いかわかっているなどと思った。更に、プレゼンを聞いて、それぞれが一番読みたいと思った本に投票するのもクロームブックで、そして保護者もQRコードを読み取り投票できるシステムだったので、今までにない参観の形で楽しかった。 ・クロームブックの持ち帰りについては、賛否あると思うが、個人的には賛成である。その分、時間割や宿題が見れるようになったので、朝の連絡帳を書く時間が不要になり、時間を効率的に使えるようになったと思う。否の理由は重たいというのが多い意見なのかなと思う。クロームブックの持ち帰りをするのであれば、それ以外の教科書類を全て学校において行っていい、とかにすればいいのではないかなと思う。音読や宿題で必要な教科書やドリルは該当ページをクロームブックで見られるようにすればいいのでは？ ・クロームブックの利用方法を低学年児童に教える。ドリルパークの取組等を家庭でも、保護者が指導できるマニュアルのようなものがあると良い。 ・1年生の「昔遊び」授業でクロームブックを使って、自分の活動を録画した後、発表やまとめに利用している様子は印象的でした。これから先の社会では、さらに進歩的な活用方法や応用が当たり前になってくるのだろうと感じました。今までの学習を継続的で変化の少ないものとするれば、こうした学習は変化や多様化こそがポイントで、固定化するとその魅力も半減してしまうと思われるので、常に新しくを意識し続ける先生方の努力を応援できる方法を充実してほしい。 ・ICTの活用では、授業でクロームブックを効果的に活用できており評価できる。授業や家庭学習だけでなく、連絡帳がクラスルームで確認できるようになったり、音楽会の練習風景やリハーサルの様子の動画を保護者も観ることができ、活用の幅を広げている。 ・低学年のクロームブック持ち帰りは、やはり負担が大きいと思うので、授業内で使用するだけで、いいのではないのでしょうか。 ・日々の宿題だけで精一杯な児童もいると思うので、そういった子に宿題を通常のドリルかクロームブックの活用か選んで取組んでもらうのはどうですか？ ・クロームブックの重量が重いと聞いているので、次回更新時には、子どもたちが家庭に持ち運びやすいように軽量化したものを導入すべきであると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習でクロームブックを使用する際、保護者が使い方がわからない場面があり、保護者への説明など、適切に行う。特に、低学年児童の保護者に対し、丁寧に説明する。 ・低学年児童にとって、従来のクロームブックは重く、持ち帰りに関して、どのように進めていくか、検討していく。
--------	---	--	--

<p>長欠減少</p>	<p>1. 適応指導教室（さくらルーム）の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援員、SLS、と連携した不登校対策 ・SSW、SCの活用 <p>→適応教室活用状況の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSW、SCの活用 <p>2. 児童支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や関係機関との連携した支援会議 ・担任や特別支援CO.による家庭訪問 ・周りの人を大切に作る仲間づくりの充実 <p>→支援会議の開催回数と児童アンケートで検証（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10名ほどの児童がさくらルームを活用している。毎日、登校してくる児童もいれば、1週間に1～2回、月に数回という児童もいる。さくらルームでエネルギーをためながら、少しずつ教室に行くことができる児童が増えてきた。 ・SLSや担任が家まで迎えに行くことで、登校できる児童がいる。保護者とも連携し、登校を促している。 ・週に6時間、さくらルーム（適応指導教室）対応の教員を配置してもらっていることで、安定した運営ができています。教室に入りにくい児童にとっても、保護者にとっても、安心できる居場所となっている。担任と相談しながら、個々に応じた学習を進めている。 ・支援会議やケース会議を開くことで、保護者の思いを聞き、児童によりきめ細やかな支援を行うことができた。（4～12月末まで、42回開催） ・担任やCoによる家庭訪問をしたときは、家庭訪問シートを使って、管理職、学年団、養護による情報共有をしている。（32件） ・多文化共生教育や特別支援学級に対する理解、ピンクシャツ運動など、誰もが安心して過ごせる学級を目指して集団づくりに力を入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・息の長い見守りをお願いします。 ・不登校の子どもへの対応について、さくらルームやSLSなど支援体制が私の子どもの在校中よりも、随分充実しているように感じます。学校へ行きたい気持ちはあるけれど、どうしても登校できない子どもへのフォローを今後とも続けていっていただきたいと思います。家庭科ボランティアの際に、さくらルーム使用の子どもに会うことがありますが、挨拶もきちんとしてくれます。 ・さくらルームは、利用児童、保護者にとって、なくてはならない存在だと思う。支援員の方や担当の先生もいらっしゃるということで、手厚く支援していただいていると思う。そのような取組、支援によって教室に行くことができるようになった子が増えてきたということは素晴らしい成果だと思う。 ・さくらルームの利用ができれば、長欠児童が減り、児童支援の方法も変わり、保護者との連携をとりながら、安心して過ごせる居場所づくりを進めてほしい。 ・不登校児童を持つ親からの相談が多くなっているように感じます。人間関係のつまずきもありますが、家庭環境、心の成長過程での不安定感など、複雑な要因も見ることがあります。ゆっくりと思いを聞いてもらえる場所があるのは、安心です。ただ、担任教員の負担があまりにも重くなるのは避けたいので、外部からの支援をもっと増やしてもいいと思う。 ・さくらルームの時間が週に6時間で十分なのでしょうか。来年度以降時間増になると良いと思います。 ・長欠児童減少に向けて様々な観点から対策していて評価できる。 ・さくらルームの設置は、学校での居場所となっている児童もいるので、とても良いと思います。 ・子どもたちや保護者がいつでも相談できるようSCやSSWの存在をもっとアピールしてもいいのではないのでしょうか。 ・学校全体で丁寧な支援を行っていると感じます。今後も子どもに寄り添った指導、支援をお願いしたいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童について、学校運営協議会委員が保護者から相談を受けるケースがある。教職員だけで対応することには限界があり、SC,SSW等、専門家を活用し、児童だけでなく、保護者の相談窓口としても充実できるように努める。
<p>地域連携</p>	<p>1. 命を守る取組の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見守り安心安全活動の充実を図る ・見守り活動の充実を努める <p>2. 地域ボランティアの協力体制の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域人材・地域資材の活用 <p>→ボランティアを活用した回数の把握（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段から、見守り隊の活動により、児童が安全、安心に登下校できるように見守り活動を行っていただくことができた。 ・不審者対応メールなど緊急時の対応について、自治会をはじめ、民生委員さんの協力を得て、多くの方に児童の登下校時の見守りをしていただき、地域の皆さんの連携、つながりを感じることができた。 ・読み聞かせボランティアの活動について、プロジェクター、書画カメラなどICT機器を活用して、児童に伝わるように工夫して取り組むことができた。 ・家庭科の調理実習、裁縫、体育科のプールなど、危険を伴う活動があり、多くの目で見守る必要がある授業では、支援をいただくことができた。 ・3年生の社会科で、校外学習（スーパーマーケット見学）を行った際、現地で児童が安心・安全に活動する様子を見守っていただくことができた。 ・老朽化に伴い、学校設備で破損がみられる箇所など、修繕が必要な部分を環境整備ボランティアの方に直していただくことができた。 ・1年生の昔遊びでは、老人クラブの協力のもと、昔遊びのコツや技を覚えてもらうことを通じて、地域の方とのふれあいの大切さを学ぶことができた。 ・3年生の昔の暮らしを知る学習では、地域の方から、昔から伝わる道具を実際に活用した授業を支援していただくことができた。 ・今年度は58名のボランティアさんに活動してもらうことができ 	<ul style="list-style-type: none"> ・この10年程で、読み聞かせ、学習支援などのボランティアに参加する保護者の方が減ってきたと感じます。ボランティアのほとんどが、子どもがすでに卒業したOB・OGの親です。今は働いている方が増えているので、仕方ないと思いますが、せっかく今までつないできたボランティア活動が次の世代にも続いてほしいと思います。 ・見守り隊の方には、登下校の見守り活動をしていただき感謝している。保護者も交代で旗当番をしているが、毎日ではないのでとてもありがたい。 ・PTAとしての旗当番は、地区ごとに行っているが、地区の世帯数にだいぶ偏りがあり、世帯数の少ない地区の方には負担が大きく、危険箇所にもかかわらず、見守りが手薄になってしまう箇所もあるのが現状である。見守り隊の方には、可能であれば、そういった箇所に立っていただくことができれば大変ありがたい。 ・ボランティアが入ることできめ細かな授業ができたり、安全が確保されるのはいいことだと思う。必要に応じて、きずなネットでのボランティア募集の案内をするのも必要だと思う。 ・地域住民の多くが学校の教育に参加してくれます。学校の安全安心に協力して活動を行っています。 ・地域のボランティア活動が継続して行われていて、子どもたちにとっても、良い環境が作られていると思う。今の所、地域の大人から子どもたちへのボランティアという形が一般的ですが、これからは子どもたちから地域へのボランティアという形も作ってみたいと思う。子どもが社会貢献できるような取組や催しを通して、自分を見つめる大人びた子どもの姿を応援していきたい。 ・見守り隊等の地域ボランティアを推進するにあたって、近年募集を目にしたことがないが、どのように募集しているのか？募集があればやりたい人がもっといるはずだと思います。 ・様々な場面で地域と連携できており評価できる。平時からボランティア活動などを通じて学校と地域が良好な関係を築いており、非常時、緊急時にも互いに協力できる関係につながっている。 ・どの学年でも地域の方々と接する機会があることはとても良いと感じました。 ・子どもたちにとって多くの地域の方々に見守ってもらっていることを意識しておくことは大切だと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年々、ボランティアに参加する保護者が減っており、ボランティア募集の案内を出すなど、地域コーディネーターと連携して、ボランティア活動が継続できるように努めていく。 ・見守り隊など、今後も地域と協働した取組みを進めていく。

1. あいさつ運動の工夫・充実
・自然なあいさつをする習慣の育成
→児童アンケートによる検証
→生活委員による朝のあいさつ運動
→児童会による外国語あいさつ運動
→「2023年最後のパワーアップ」運動
→学期初めの職員によるあいさつ運動

2. よりよい生活態度・生活週間の確立
・組織的な生徒指導を推進する生活指導だよりの発行
・情報交流会の開催
→児童アンケートによる検証
→「2023年最後のパワーアップ」運動
→生活指導委員によるチャイム前放送
→清掃委員会作成したトイレ掃除の仕方の動画の活用
→ノー残食デーの取組
（成果と課題）
・学校アンケートの「誰にでもすすんであいさつしている」の数値が向上した。（している・どちらかといえばしていると回答した児童 84%→86%）
・チャイム前放送が習慣化し、放送を聞いたらほとんどの児童がチャイム前に着席する姿が見られた。
・生活委員、児童会、職員が定期的にあいさつ運動を行うことで、自分からあいさつをする児童が増えた。また、あいさつをされたらほとんどの児童があいさつを返していた。
・「2023最後のパワーアップ」運動では、各クラスであいさつや整理整頓などの目標を設定することで、クラスごとに意識して声を掛け合い、成長する姿が見られた。また、その姿を認める言葉がけを職員が行うことで、より意欲的に取組む児童の姿が見られた。
・トイレ掃除の仕方の動画を作成したが、職員が目がなかなか届きづらいこともあり、誤った方法で掃除をする児童の姿が見られた。
・毎週火曜日の打ち合わせや、毎週金曜日の学年主任情報共有によって、各学年の生活指導事案が周知され、注意喚起等の対応をそろえることができた。
・ノー残食デーの取組みにより、ほかの日でも残食をできる限り減らそうと声掛けをしたり、声掛けにこたえて一口でも多く食べようとしたりする児童の姿が見られた。

・ボランティアで学校に行った時には、廊下ですれ違う子どもたちは、よく挨拶をしてくれると思います。挨拶は生活の基本なので、これからは様々な活動を続けて習慣にしてほしいです。
・どのクラスもチャイムが鳴ったら、すぐに授業が始められるとのこと、素晴らしいと思う。落ち着いて授業を受けるのに大事なことだと思う。2学期に学校運営協議会内で全クラスの授業を見てまわった時も、ほぼどのクラスも落ち着いて授業を受けている様子を見ることができた。
・先生方の情報共有により、注意喚起などの対応をそろえることができたとのこと。同じ事柄に対しても、先生によって言うことが違うとか、有り無しの判断にバラつきがあるのは子どもが混乱し、不信感につながることもあると思うので、この取組はとてもありがたいし、引き続き行っていただきたいと思う。ただ、子ども目線だと、まだ、バラつきを感じているようである。同じ事柄でも、あの子はダメだと注意をされて、また別の子は注意をされない、とか、前はダメだと言われたのに、今は言われない（その逆のパターンもある）とか。もちろん、個別の事情もあり、子ども達が見えている部分は少ないかもしれないが、そのように感じていることも確かである。先生によって、考え方、ルールの認識が違うことも当然のことだと思うので、全て統一してくださいということではないが、子ども達が先生や学校に対して不信感やマイナス感情を抱くことなど、なるべくなく学校生活を過ごしてもらえたらと思うので、引き続き取組をお願いしたいと思う。
・ノー残食デーの日をもう少し増やしてみは？
・見守り隊の活動で、登校時に「おはようございます」と声掛けすると、ほとんどの児童が挨拶をしてくれる。「2023年最後のパワーアップ」運動等で少しずつ常識ある児童が育つと願います。
・声をかけると元気なあいさつが返ってくる人が多いと感じます。挨拶の大切さは、案外大人になってからの方が、強く感じるものなのかもしれないと思うことも多々あります。子どもの頃に習慣として身につけていけば、とても幸せなことだと思います。相手があって交わすあいさつ、自分の心に向かってかけるあいさつ、強い気持ちを表明するようなあいさつ、子どもたちがたくさんあいさつできる場面を体験できる工夫が見られます。素晴らしいと思います。
・昨年度に取組んでいた「ノーメディアの取組」は定期的に行っていくとあったが、今年度も取り組んでいるのか？スクリーンタイムとも関係があると思うので、継続していくべきと思います。
・自ら挨拶をする児童が増えたことやチャイム前に着席ができるなどの成果があり、評価できる。クラス目標を設定し、クラス全員で目標達成する意識を高め合い、成果につなげることができている。
・来校時にいつもあいさつをしてくれるので、とても気持ちがいいです。
・チャイム前放送による着席がしっかり身につけていることに感心しました。

・組織的に生活指導を進める中で、引き続き、学校全体で統一した指導を進めていく。
・ノー残食デーについて、職員、児童が意識して取組むことができており、継続して食育の充実を図る。
・ノーメディアデーの取組について、読書、家庭学習、スクリーンタイムとも関連付けて、学校・保護者が協力して取組を進めていけるよう働きかけていく。